



やっと幼稚園の生活リズムに戻り、子どもたちはそのリズムに慣れる子や少しばかり苦労する子とさまざまです。変化に富む生活が子どもたちの育ちに力になってくれます。

夏の行事の開催にもコロナの影響があり心を痛めておりますが、知恵を借り、工夫をしてなんとか出来ないものかと思案の毎日です。

あと一年しか在籍しない年長児たちの思い出づくりに...と。

■分散登園から通常の登園になりました。これ迄の生活リズムから新しい生活リズムへの切り換えが必要ですが、子どもは勿論ですが、ママさんは出ましたか。

■子どもたちの園生活は、これ迄と違って変化に富む生活になります。

月曜日から金曜日までの毎日の園生活は、心の面でも体の面でも何らかの影響を与えますので、見守ってあげましょう。

決して甘やかす事なく、時には甘く！時には厳しく！温かく対応してあげてください。

これ迄と違って、我が子の育ちへの変化が

読み取れますので、期待してください。

■お当番活動と言ひがあります。子どもは大好きです。教師のおてたいです。

男の子と女の子のふたりで毎日交替です。

教室の壁に「お当番の自画像」が展示してあります。

それに沿って順番がやってきます。

どの子も自分の順番がやって来るのを首を長くして待つております。



お当番さんたち、一体どんなことするのか！次号でお伝えします。

♡ + + + + + + + + + + + + + + + + ♡  
+ すぎの (お)りせいせい +  
+ 6月20日(土)から 土七 (お)りせいせい +  
+ になりました。ご報告いたします♡ +  
♡ + + + + + + + + + + + + + + + + ♡

## (心の育ちシリーズ) お日さまと一緒に!!

「ごはんを食べないと死んでしまう。しかし、手のこんだごはんではなくて死にさえしなければ納豆ごはんでも済ませて、さっさと寝かそう!!」という考えを親が持つだけで、子どもの生活は簡単に変わります! 極めてシンプルで、親にとって子育てが楽になる為の方法です! こんな乱暴な事をすすめているのは、小児科医で発達脳科学者の成田奈緒子さんです。

で、一理あるんです。「くり返し刺激で「からだの脳」がしっかり育っていれば、5歳を過ぎた頃には、夜は勝手に眠くなり、朝は自分で目覚めて空腹を感じ、食事をとって学校に行く!」とっております。

昔はこんなことばかりでした。私は戦前から戦後へかけて、幼児期から学童期を過ごしました。どの子も、あそびの疲れから夕食中にゴックリがはじまり、翌朝6時前には布団から出ていました。どの子も10時間は寝ていたのです。

これは決して乱暴な事ではないのです。理にかなった子育てなのです。太陽が昇ると同じく目覚め、太陽が沈むと同じく寝ると言う生活リズムは、子どもの心と体を健やかに育ててくれるのです。

昔と違って今の世の中はとて多様化してきております。昔の方法が今の社会ですんなり行くとは思えない所もありますが、昔の子育てに学ぶ事はありますね。

昔はモノがなくて不便な生活でした。今はモノにあふれていて便利な生活。ここにKEY POINTがあるのかな! ママの我慢と根性でがんばりましょう!